

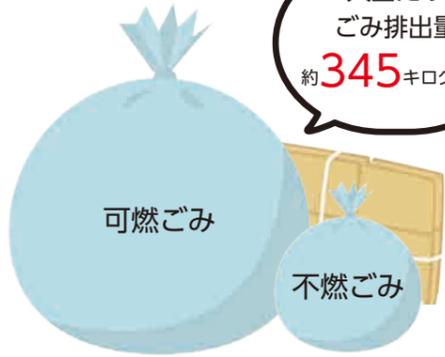


### 平成28年度 一般廃棄物の処理費用

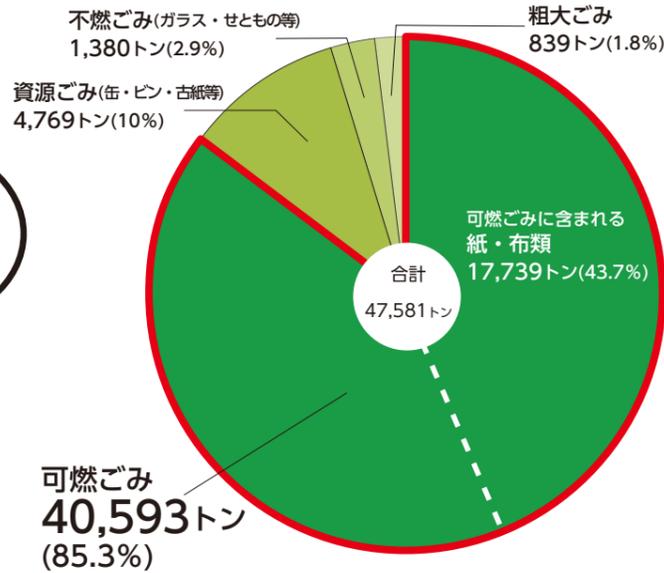
約**12**億9810万円

※人件費、施設管理費を含む。

一人当たりのごみ排出量  
約**345**キログラム



### 平成28年度 一般廃棄物の排出・処理状況



## みんなで考えよう！ごみの減量化 ～なぜごみを減らさないといけないの～

生活と共にあるごみ

「12億9810万円」

何の金額か分かりますか？これは、平成28年度中に古河市から排出されたごみの処理と施設管理にかかった費用の合計概数です。

生活をしていく中で必ず発生するごみは、私たちの生活と切っても切り離せない関係にあります。ごみ処理には毎年多くの費用がかかるほか、ごみを焼却する際に二酸化炭素を排出し、地球温暖化の一因となるなど、地球環境にさまざまな悪影響を与えています。

税金の節約や環境保護のために、私たちは何ができるのでしょうか。一人ひとりの意識を少し変えるだけで、ごみの減量化が可能になります。まずは、私たちが発生させているごみの実情を知り、少しでもごみを減量できるように一緒に考えてみましょう。

#### ごみの実情について考える

平成28年度の古河市における一般廃棄物(集積所に出されるごみ)の処理量は4万7581トン。その中で可燃ごみの量は4万5933トンもあり、全体の約85%を占めています。

#### 可燃ごみを資源に

市内から排出される可燃ごみの中には、まだまだ分別可能な資源ごみが多く含まれていることが分かります。可燃ごみに含まれる紙や布類をしっかりと分別することで、処理費用が少なくなるだけでなく、資源が循環し、より良い環境が生まれてきます。

#### しっかりと分別、リサイクル

可燃ごみを減らすだけではなく、缶・ビン・ペットボトルや古紙・段ボールなどの資源ごみを正しく分別し、リサイクルしていくことも大切です。

古紙リサイクルに関しては、1リットル用の牛乳パック6本でトレットペーパーを1個作ることができるといわれています。

そのため必要なのは、ごみをしっかりと分別すること。適切な分別が行われていないと、資源のリサイクルができないだけでなく再分別を

どうすれば可燃ごみを減量できるのか、そのヒントは普段の生活の中にあります。「買ってきた食品を無駄にしない」「作った料理はきれいに食べ切る」「リサイクルできる資源はしっかりと分別する」など、小さなことの積み重ねがごみの発生量を減らすことにつながります。

最も多量で処理費用がかかる可燃ごみだからこそ、ちょっとした努力で大きな効果が得られます。

#### 燃えるごみは灰になって残る

「限りある資源を大切に」という言葉は、ごみ問題においても同じことがいえます。ごみを焼却すると約10%は灰となって残り、平成28年度には約4千トンもの焼却灰が発生しています。

その灰は、最終処分場に埋め立て処理をされていますが、埋め立てができる場所にも限りがあるということはあまり知られていません。

この先、埋め立てる場所が無くなってしまつと、ごみはどうなるのでしょうか？ 将来、子どもたちが住みにくい環境とならないように、ごみの減量化について一人ひとりが真剣に考え、できることから少しずつ実行する必要があります。

回収された古着はどうなるのか？

昨年度、資源ごみとして回収された古着類は約**110**トン。

焼却処分されるのではなく、海外に輸出されるなど、再利用されています。

※穴が開いていたり、汚れている衣類については燃えるごみに出してください。

する手間も増えてしまひ、余計に経費がかかってしまいます。

毎日発生するごみだからこそ、すぐにでも取り組まなければなりません。年間に市民1人当たり、約345キログラムのごみを排出している現在、減らす工夫と合わせてリサイクルしていく努力も必要です。

「面倒くさいから」と言つてやらないうと、その面倒くさいはきつとどこかに積み重ねられていき、それをいつか誰かが背負わなければならなりません。ごみ問題は、直接私たちに降りかかってくると考え、まずは、ごみの減量にチャレンジしてみよう。